



5-4-29, Minami-aoyama, Minato-ku, Tokyo JAPAN 107-0062  
TEL: +81(3)3498-6220 FAX: +81(3)3498-6221 <http://www.abest21.org/>

THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW, a 21st century organization

ABEST21ACC12112  
2011年12月14日

関西学院大学長  
井上 琢智 殿

特定非営利活動法人  
THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION  
AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW,  
a 21st century organization  
理事長 伊藤 文雄

#### 2010年度「実行計画履行状況報告評価」について

拝啓 師走の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より ABEST21 認証評価活動に格別のご高配を賜り、誠に有難く感謝申し上げます。

さて、貴校よりご提出いただきました 2010 年度「実行計画履行状況報告」は、ABEST21 実行計画履行状況報告評価委員会で検討され、2011 年 11 月 4 日開催の 2011 年度第 1 回 Peer Review Committee で承認されましたので、添付のとおり「実行計画履行状況報告評価」をご通知申し上げます。「実行計画履行状況報告評価」は、貴校のマネジメント教育の質維持向上が着実に進行していることの証しでありますので、これを広くステークホルダーに公表していきたいと考えています。

「実行計画履行状況報告」は認証時での「自己点検評価報告」で分析されました実行計画の履行状況を毎年ご報告いただいているものです。しかし、この間の加速度的な教育研究環境の変化に対処して教育の質維持向上を図るためには、認証時の改善課題及び実行計画を一度検証し、改善課題の見直しが必要と考えます。それ故、2012 年 5 月 31 日（木）に提出いただきます「実行計画履行状況報告」は、認証時から 3 年目の実行計画の履行状況の報告とさせていただきますが、2013 年 5 月 31 日（金）に提出いただきます「実行計画履行状況報告」は、2012 年 4 月 1 日より 2014 年 3 月 31 日までの残り 2 年間の見直した改善課題とその実行計画に基づいた報告とさせていただきます。なお、詳細につきましては後日改めてご案内いたします。

敬具

2010 年度実行計画履行状況報告評価

認証校：関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科

1. 企業経営戦略コース		
(1)	実行計画	<p>ジェネラリスト教育に基づいたカリキュラム編成</p> <p>本ビジネススクールの人材育成上の目標の一つであるジェネラリストの養成のためには、コア科目、ベーシック科目の充実が必要となるだろう。そこで、コア科目、ベーシック科目における必修科目の修正を行う。また、入学前の学力のレベルアップを図り、コア科目等の円滑な授業開始を可能にする施策を検討する。具体的には以下の通りである。</p> <p>(1) 企業倫理を必修科目とする。英語コミュニケーション、経済学、経営学、統計学、会計学のコア 5 科目を選択必修科目とし、最低 4 科目を選択するようにする。</p> <p>(2) 企業経営戦略コースにおいて、各プログラム選択者に必修となっているベーシック科目を全員に必修とするよう検討する。このことにより、多様な分野についてのより深い理解が得られ、プログラム間の履修者の偏りが緩和されることが期待できる。</p> <p>(3) ロジカルシンキングをベーシック科目として開講する。</p> <p>(4) 基礎数学やコンピュータリテラシのような科目について入学前教育を実施することで、入学後の学習が円滑に進むようにする。</p>
	2010 年度履行状況	<p>本ビジネススクールの人材育成上の目標の一つであるジェネラリストの養成のためには、コア科目、ベーシック科目の充実を行った。具体的には、コア科目、ベーシック科目における必修科目の修正を行うとともに、入学前の学力のレベルアップを図り、コア科目等の円滑な授業開始を可能にするための施策を検討した。</p> <p>(1) 企業倫理を必修科目とした。また、英語コミュニケーション、経済学、経営学、統計学、会計学のコア 5 科目を選択必修科目とし、最低 4 科目を選択するようにした。</p> <p>(2) 企業経営戦略コースにおいて、各プログラム選択者に必修となっているベーシック科目を全員に必修とする方向で検討を行った。</p> <p>(3) 2010 年度よりクリティカルシンキングをベーシック科目として開講した。</p> <p>(4) 基礎数学やコンピュータリテラシのような科目について入学前教育を実施することにつき、検討を行った。</p>
	2010 年度評価	<p>実行計画が計画通り実行されていると評価する。</p>
(2)	実行計画	<p>修了年限を中心とした変更</p> <p>現在の修了年限の規定は2つの点で問題がある。まず、1年半修了の学生が十分な学習量を確保できていないのではないかという点である。2つめは多忙なビジネスパーソンにとって現状でも2年間での修了は困難であるという点である。そこで、以下の4つの施策を検討する。</p> <p>(1) 2年修了を基本とし、早期修了については履修単位数制限の強化や GPA の最低条件を設ける。</p>

		<p>(2) 3年修了を基本としたゆとりを持って学習できるコースを設ける。 授業料は2年間並みとする。</p> <p>(3) 土曜日もしくは土曜日・日曜日のみで修了可能なコースを設置する。</p> <p>(4) ネット上での授業を可能にするなど通学の負担を減らす。</p>
	2010年度 履行状況	研究科内で協議して合意済みだが、学内財務部との調整に難航し、実現には至っておらず、来年度以降の継続課題となっている。
	2010年度 評 価	今後の進展を期待する。
(3)	実行計画	<p>図書資料の充実 大阪梅田キャンパスの図書資料室においては、蔵書冊数および図書の紛失において問題が認められた。そこで、以下の点についての解決策を実施していく。</p> <p>(1) 図書の効率的な管理体制について検討する。</p> <p>(2) 上ヶ原の大学図書館との役割分担を考慮し、梅田に蔵書する図書の収集方針を決める。</p> <p>(3) 教員による選書を定期的実施する。</p>
	2010年度 履行状況	<p>(1) 具体案の策定にはいたっていない。</p> <p>(2) 学生の自習を促すため、シラバスに記載された参考図書および洋書テキストを優先し、次に、学生希望図書、最後に教員による選書を行っている。</p> <p>(3) 上記の優先順位に従って収書するため、教員による選書は予算残額の範囲で実行されることになり、定期的・計画的であるとはいえない。</p>
	2010年度 評 価	実行計画の実現に向けて一層の努力を求める。
(4)	実行計画	<p>成績評価の厳格化および成績不良者への対応 成績評価のバラツキを是正するために、評価が極端に高い（もしくは低い）科目について、FD活動の一環として、その要因を分析するとともに成績評価の妥当性を検討する。そして改善された成績評価により学生の個人の成績を教員間で確認するために、専攻会議にて定期的に成績不良者（入学後半年のGPAが一定の値以下の者）の学業成績を確認し、必要であれば教務学生委員が個別に面談するなどの施策を付すためのプロセスを確立する。また課題研究の申込時に学業成績データを添えることで、教員による学生の選択基準として活用する。</p>
	2010年度 履行状況	<p>成績評価の厳格化に対応する為に2009年度以降、できる限り評価を正規分布に近くなるよう各教員の裁量にて成績評価を見直すよう専攻会議にて確認した。その結果、講義科目GPA平均値は2.91(2008年度)から2.63(2010年度)に下がり、厳格化についてはある一定の効果は認められた。ただし、それでもなお正規分布からの逸脱は大きく、現在、基礎科目(コア科目とベーシック科目)について相対評価制度を来年度より導入することを検討しており、より厳格な成績評価を目指している。また成績不良者への対応については、専攻会議にて諸策を議論してはいるものの、実施には至っていない。しかし、来年度においては正副の教務学生委員が実験的に成績不良者に面談をして、成績不良の原因分析と勉学上のアドバイスを行う計画にしている。</p>
	2010年度 評 価	実行計画が着実に実行されていると評価する。
(5)	実行計画	<p>任期制実務家教員の確保 任期制実務家教員の採用が困難であるという問題について、採用時期の分散</p>

		の可能性について検討し、また組織的なリクルーティング活動に取り組むなど継続的に優れた人材の採用活動に力を入れる。
2010年度 履行状況		今年度の任期制実務家教員の契約更新に際しては、最新の時点での履歴書と業績目録、そして関連分野の教員2名が実際に授業参観を行って、契約更新の可否を議論し、その結果として、全員を契約更新して頂くこととなった。来年度の契約更新に際しては、学生による授業評価の結果があまり芳しくなく、またシラバスの記述に必要な情報が提供されていない教員がいるので、注意を喚起し、それでも矯正されないようであれば契約を更新しない予定にしている。それと並行して、新規の教員候補を当該専門分野の教員が探索中である。 以上のように、任期制教員の契約更新の厳格化と、それと並行した大體教員の探索とを並行して進めている。
2010年度 評価		実行計画が着実に実行されていると評価する。
2. 国際経営コース		
(1)	実行計画	各プログラム内でのコア・ベーシック・アドバンストの各科目間の連続性や一貫性 現在、国際経営コースでは、各プログラム内でのコア・ベーシック・アドバンストの各科目間の連続性や一貫性に改善の余地があると認識している。こうした課題の解決のためには、今後、カリキュラムの構成やオリエンテーションの在り方に関し、今まで以上に、今後本格的議論を重ねていく必要があると考える。国内外の主要なデイトタイムMBAカリキュラムと比較検討しながら、本ビジネススクールの国際経営コースにおけるグローバル・ビジネス・パーソン教育に最もふさわしいカリキュラムを広範な調査・分析を基に慎重に再構築していく。この調査・分析は2009年10月から2年半のスパンでスタートする「大学間連携戦略」における関西学院大学ビジネススクール担当の国際ビジネス教育支援プロジェクトの一環として実行される。
	2010年 履行状況	科目間の一貫性： 国際経営コース教員が担当する科目間の連続性に対する評価を行った。その結果、現在のコア・ベーシック・アドバンストの配置によって、学生は自分の専攻分野のアドバンスト科目を履修するために必要な基礎知識をまず習得するということが可能になっていることが明らかになった。本研究科では年2回入学（4月と9月）を実施しているため、学生が春・秋の両学期で履修できるよう柔軟な配慮が必要であるが、事前に履修することが望ましい科目や先修条件によって十分に柔軟な対応ができています。学生が自らの潜在的学習能力を最大限に引き出すために履修モデルに沿って履修するよう、入学時はもちろん2年間の在籍中も度々学生に履修指導をしている。この履修モデルについては入学時オリエンテーションでも紹介し、ホームページにも掲載している。学生へのインフォーマルなアンケートや学習進捗状況確認から、学生達は概してこの履修モデルに倣って履修していることが分かった。3つの専門プログラムの各担当教員も、専攻科目の履修に際して学生に確認し、学生達がアドバンスト科目を履修するための基礎的土台となるコア・ベーシック科目を既に履修済みかを判断している。 シラバスの確認： 分野ごとに2010年度専任教員担当科目のシラバスを検証することにしており、各分野の科目一貫性もチェック項目である。6月末にはこの作業を完了し、8月末までに改善点をまとめる予定である。

	2010年度 評 価	今後の進展を期待する。
(2)	実行計画	<p>入学前準備プログラム 国際経営コースにおいては、オリエンテーションは全体として目的を達成しているが、プレエンロールメント(準備)プログラムに関しては各年度の入学時の諸事情に左右されており、必ずしも制度に基づいて組織的に実行されているとはいえない。今後どのように新入学者に早くコースに馴染ませるか、制約を超えてプレエンロールプログラムを定着化させるかどうかを検討する。</p> <p>短期的には学生ニーズと制約を基に正規オリエンテーションの中で準備プログラムを構築する。中期的には、プレエンロールメント・プログラムに関する広範な調査・分析を基に慎重に再構築し、実行していく。この調査・分析は「大学間連携戦略」プロジェクトの一環として実行される。</p>
	2010年度 履行状況	<p>入学前準備プログラム： 国際経営コースでは、入学予定者に対して入学前オリエンテーションを実施し、各プログラム(Management, Marketing, Finance/Accounting)の概要や学習方法(たとえば、case work; simulation work; group problem solvingなど)について説明を行ってきた。しかしながら、参加者および入学前オリエンテーションに関わったTA(在学生)の双方から、このオリエンテーションプログラムが、多種多様なバックグラウンドをもった新入生のニーズを満たしていないことが明らかになったため、現在では実施していない。</p>
	2010年度 評 価	実行計画の実現に向けて一層の努力を求める。
(3)	実行計画	<p>成績評価の偏向の是正 国際経営コースにおける成績評価のA評価以上への偏向は、早急に改善されるべきである。この計画の実行は主に本ビジネススクールの専攻会議、FD委員会、執行部のイニシャティブで容易に早期に実現されるべき課題である。実現後は、学期ごと教務学生委員と教務学生副委員の責任でモニタリングを行うことを制度化する。</p>
	2010年度 履行状況	<p>授業科目の成績評価：国際経営コースでは、専任教員が担当する2010年度授業科目の成績評価データを収集している。このデータを分析し、全体的な分布の原因を究明する予定である。5月中旬には分析を終え、8月末には何らかの提言ができる見込みである。学生の成績分布の調整：2010年度時点では、明確な調整は行っていない。</p>
	2010年度 評 価	今後の進展を期待する。
(4)	実行計画	<p>英語による学習支援環境の構築 国際経営コースに所属する日本語ができない学生のために、英語専用のコンピュータ端末を一定数用意し、また掲示板や授業連絡ボードなどの情報システムを英語版と併用できるように大学に要請し、日本語を解する学生との情報格差を低減させるべく英語による学習支援環境の充実を図っていく。</p>
	2010年度 履行状況	<p>成績不振学生の対応： 国際経営コースでは、各教員が、科目合格に必要な成績が常に標準を下回る学生がいると気付いた場合に、国際経営コース担当教務学生委員に相談するしくみが整っている。相談があれば、教務学生委員は、授業担当者と話し合った上で、各教員が実行可能な、よりよい授業運営方法を検討する。その上</p>

		で、学生の成績に変化が生じない場合や、当該学生が他の科目でも成績不振であった場合は、教務学生委員はインフォーマルに当該学生と話し合い、潜在的な要因を究明し、学生とともに問題を解決するようにしている。それでも改善されない場合は、研究科ないしは大学の公式なカウンセリングをうけることになる。
	2010年度 評価(案)	英語による学習支援環境構築の進捗状況の説明が求められる。
	2010年度 申立意見	学生のグループワークやディスカッションを促進するために多目的室が設置された。プリンターなども配備されているので、十分に活用されている。英語対応のPCは、外国人留学生数に見合うよう増設された。加えて、全学共用棟に無線LANが敷設された。
	2010年度 評価	英語による学習支援環境の構築が進んでいると評価する。
(5)	実行計画	留学生に対するキャリアサービスの改善 本課題は、全学の国際化(英語授業と多くの留学生を擁す国際学部の2010年度開設)の流れのなかで、学内キャリアセンターおよび留学生プログラムを管轄するCIECとの調整を通して解消させる。国際経営コースは、英語によるキャリアサービスと日本語語学プログラムへの柔軟な対応の実現時期を2011年~2012年として、そのために必要な学内調整を本専門職大学院執行部と国際学部を巻き込んで行う。留学生に不利益が発生しないよう、英語でのサービスの早期実現を図る。
	2010年度 履行状況	留学生に対するキャリアサービスの改善： 主として、国際経営コース教員のマンパワー不足により、2010年度時点では、経営戦略研究科執行部や国際学部と具体的な検討はできていない。当初計画では、2011年度から2012年度にキャリア支援活動を実施すべく予定していたが、入学定員充足や教員の欠員補充など優先すべき課題があり、本課題には着手できていない。しかしながら、文部科学省補助事業として実施している戦略的大学連携プログラムにおいて、プログラム専従契約教員を採用しており、プログラムの一環として、同契約教員による留学生のためのインターンシッププログラムの開発を見込んでいる。
	2010年度 評価	実行計画の実現に向けて一層の努力を求める。
(6)	実行計画	定員充足 本課題は、全学の国際化の流れのなかで、学内入学者の確保が可能となり、2013年から2014年までに解消させる。国際経営コースでは、その時期と年当たり5名の推薦入学の制度化の合意を新学部から取り付けている。また、少なくとも2014年までに、他学部との合意を実現させる計画である。
	2010年度 履行状況	定員充足： 2010年春学期入学者については例外的であったが、概して、年間30名の定員を満たしていない。従って、研究科や学内関係機関による学生確保のための募集活動およびさらなる支援が強く望まれる。
	2010年度 評価	今後の進展を期待する。
(7)	実行計画	教員採用 国際経営コースの専任教員の採用に関しては、現在も広く公募している。海外からの応募もあるが、業務を遂行する上で、ある程度の日本語コミュニケ

		<p>ーション能力が必要不可欠であるため、なかなか本学が要求する要件を満たす候補者が見つからないのが現状である。しかし、本学の教育のレベルを維持するためには、質の高い教員の確保は必要不可欠である。当面は既に退職した教員と海外の著名な客員教授の協力を仰ぎつつ、引き続き広く公募をしながら候補者を選択していく。国際経営コースの充実を図るため、2009年4月からファイナンス・プログラムで准教授1名と9月からマーケティング・プログラムの准教授1名を任期制教員として任用した（両名とも一定の研究教育実績を上げることによって任期の定めのない教員になることができる）。この2名の新規任用により、授業時間数の問題も緩和されるが、引き続き、授業負担のバランスを図るため、客員教授や非常勤教員の確保を行なっていく。</p>
2010年度 履行状況	教員採用：	<p>国際経営コースでは、2010年度から欠員補充のための採用活動を始め、accounting分野ですでに1名の助教を採用した。また、2012年度採用に向けて、finance分野の欠員補充のためのサーチ委員会を立ち上げ、すでに数名の有力な候補者を選考し、現在、インタビューを実施しているところである。</p>
2010年度 評価		<p>実行計画が著実に実行されていると評価する。</p>

### 3. 国際経営コースと企業戦略コースの連携

(1)	実行計画	<p>国際経営コースと企業経営戦略コースの連携</p> <p>本ビジネススクールの大きな特徴の一つは、社会人を対象とする企業経営戦略コースと全ての授業を英語で行う国際経営コースの2つのコースを擁していることである。これら2つのコースがお互いに良い影響を与えればよいが、対象学生のバックグラウンドは大きく異なり、また国際経営コースでは全ての授業が英語で行われるため、二つのコースの連携は困難を極める。そのような中でも、2つのコースが効果的に連携することによりシナジーを追求しなければならない。連携の内容に目を向けると、教育資源（教員や教材）の共通化および学生交流に大きく分けることができ、それぞれについて一歩ずつでも有効な施策を継続的に進めて行く必要がある。そこで以下に示す戦略的大学連携プログラムを通じた取り組みを計画している。</p> <p>戦略的大学連携プログラムの実施</p> <p>2009年度から開始された戦略的大学間連携プログラムにおいて、授業で利用されるケースを日本語と英語で作成し、両コースの学生に教育する企画を立てている。両コースに所属する日本人学生や留学生などが混じり合って授業を受けることで英語、日本語による教育の長所、短所を調査する。こうした機会を設けていくことで双方のコースにとってよりよい学習基盤が蓄積されるものと考えている。</p>
	2010年度 履行状況	<p>本ビジネススクールでは、国際経営コースの学生（留学生、日本人学生、交換留学生）と企業経営コースの学生が共に履修するハイブリッドコースをファイナンス分野において2011年度からの開始を決めた。ケースディスカッションを中心にグループで様々な課題に取り組む予定である。日本語以外を母国語とする学生と日本語を母国語とする学生を意図的に混合し、また、実務経験の長い学生と若い学生のミックスをバランスよく行うことによって、学習のシナジー効果が期待されている。さらに、戦略的大学連携プログラムに</p>

		において共同で授業開発を進めている連携大学院の学生にも授業を公開している。
	2010年度 評 価	実行計画が著実に実行されていると評価する。